
しろはく活動記録

古地図と城の泉 第2号

平成25年12月1日

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

始めに

来年は平成23年に文化財関係者限定で開催した『上野動乱 絵図に見る戦国城館展』に、その後の資料を加えて、一般公開したいと考えて居ます。今の構想では群馬の中世城館として関東管領上杉憲政の平井城、長野業政の箕輪城と関連資料、上杉の春日山城、武田の躑躅が崎館、北條の支城群、織田の安土城、小田原の役迄で、秀吉の豊臣大坂城本丸図等群馬を取り巻く戦国絵巻を古城絵図と錦絵で表現、テーマも一般向けに『城絵図に見る戦国群馬』等、展示会場の広さを合わせてこれから検討します。予定は春ですが、正式に決まればご案内させていただきます。

『古地図と城 専門店 城郭文庫』を発足させました。群馬県古書籍商業協同組合加盟、群馬県公安委員会許可による唯一の安中市内の古書店であり、日本唯一の城郭専門書店です。各位の探究書と蔵書整理のお手伝い、博物館の資料探索協力が可能です。位置づけは博物館事業を行う富原文庫のミュージアムショップとしています。予約で来訪が可能です。よろしくお願いします。

城郭現地調査報告及び資料調査

1・中世安中城、近世安中居館、近世安中城の歴史と全国安中城絵図調査報告、および、現状遺構にかかわる初めての報告（平成25年6月2日の安中市教育委員会主催会津若松城下絵図屏風展示会併催講演会資料ですが、当日の来場者にのみ配布されていますので、再録させていただきます。）

安中城については改めて、『安中市最大の遺跡 安中城とは』として、報告の予定です。

本報告では全国の安中城絵図の所蔵状況を初めて明らかにしました。幕府提出修理絵図を始め、全国に多くの絵図が現存します。**安中地名の起源を改訂しました。榛名神社文書で既説より100年余り遡ります 中世安中城の初見は資料から1529年と遡り、廃城は天正10年迄延長されます。中世安中城本丸は後の近世安中城本丸に重複、城東北の櫓台はなく、東北舌状台地先端本丸説は否定される。櫓台状遺構は近世の煙硝蔵の防爆施設と判定しました。又、安中城は言われるところの井伊氏の築城ではなく、内藤氏の新規築城となります。井伊、水野、堀田、前期板倉時代は大名資格制により、城所有は許されず、これらは安中居館といわれました。内藤氏新規築城安中城の変遷、後期板倉時代から幕末まで安中城址の状況については、幕末から現在までの絵図、地図を解析中。安中城を幕府の城郭統制という観点、そして、絵図の分析という新しい視点から、始めて明らかにしたいと思います。**

1 安中城の既存研究

○山崎一 群馬県古城址図集第1－5集 1962年、東西650m、巾350m、本丸は東北太郎

兵衛屋敷、東西150m、南北100m、二の丸東西220m、南北180m、西郭東西南北とも200m、三の丸に武家屋敷、貴重な業績であるが、現状図ではなく、推定復元の根拠がなく、問題が多い。また、東北本丸説は今回否定した。

○淡路博和 現存建物・昭和58年現在、茅葺の家11軒、井戸13個、城門3個（大竹の坂本家、下磯部の須藤家、熊野神社）土塀の瓦、下磯部の須藤家、武器蔵、高別当の中島家、東門番所、往時の場所に、家老屋敷の一部、安中教会牧師館、壕跡。

○文献からは黒田基樹氏による2010年学習の森平成22年度企画展講演会や2012年4月29日の安中市教育委員会による「安中氏に関する一考察」がある。

○安中市教育委員会による発掘調査に基づく考察

1991年池尻遺跡にの発掘により、安中氏以前の堀跡が発見され、窪庭館として、地割から100x100mの居館を想定されている。2011年小学校文化センター等の発掘により、巾10m、底部7, 5m、深さ4, 5mの中世の堀、近世安中城東端の土塁と石積み。

2 新視点 絵図の検討、城郭統制

城絵図の収集、分析、江戸幕府城郭統制から、城跡の縄張調査という軍学者の視点から学際的に事実を明らかにしたいと考えています。安中城は時代を通じて、碓井川と九十九川を自然の要害とし、北の断崖を背景として、南向きに防衛され、碓井谷の東西の交通を遮断するために構築されています。

1 中世安中古城

1 中世安中古城の絵図は残存しない、古城絵図は一般に江戸中期に城が机上の学問になった時代に、築城学のために軍学者が縄張という視点で現状を調査した絵図であるが、安中城については、安中藩の居所となっており、遺構が残されていないため、絵図調査ができなかった。

2 中世安中古城の本丸遺構とされる、空堀は絵図によると北口の旧道跡であり、堀ではない。櫓台は内藤時代に煙硝蔵を作る際、従来の1mぐらいの稲荷台を城郭部分の安全のために高くしたもので中世の遺構ではない。安中城本丸とされる防衛ラインは存在しないことに成る。又、北が大手とされる中で、大手の脇の低地に本丸があるということは、防衛上不自然である。

3 発掘された中世の大規模な堀は現地を立てば、西高東低であり、西側が城内、又、堀は西から埋められているということで西側に土塁が想定され、東が城外となる。

4 永禄2年とする安中氏の記録以前、多くの安中、安中城の記録が残されている。

1) 安中志には近くの築瀬城について 建治元年1275年4月安中家の先祖、二位中納言惟基入城、築立て、居住、3、4世後、重国康永6年1347年越後に引き移る。（上杉方安中氏）

2) 永享元年1429年5月足利・鶏足寺世代血脈、慶秀法印 安中の後閑北野寺吉祥院と号す、上野州安中三木慶秀律師に付釈論を就学す（足利方安中地名）

3) 榛名神社文書足利持氏書状応永24-31年ごろ1417年1423年

3月28日鎌倉公方足利持氏 木部弾正左衛門入道道金に、上野国榛名寺別当職と寺領を安堵する。

木部弾正左衛門道金書状石刷、木部道金が安中、後閑、小幡の内、望みのところを与えるとの文書であり、地名としての安中が見える。、足利持氏書状と同時期と考えると1417年から、持氏の死去する1438年の間に安中は存在していたことに成り、安中地名の発祥は通説の永禄2年1559年を142年から121年さかのぼることに成る。幕府と持氏の対立 永享10年1438年持氏幕府により誅殺（足利方安中地名）

4) 享徳4年1455年5月13日新田荘の岩松持国宛足利成氏書状の野田持忠副状に佐久の大井播磨守が碓氷坂を超えて上野国に進出し安中左衛門之知行分に陣取 足利成氏は関東管領上杉憲忠を誅殺し、足利上杉抗争の中で岩松や大井は足利方、安中氏は上杉氏の被官として存在していた。

(上杉方安中氏)

5) 長享元年 1487 年安中出羽守忠親 越後新発田より松井田小屋城に移住 和田記 子安中伊賀守忠清 孫安中越前守忠政 安中左近次郎成 原市榎下城築城 (上杉方安中氏)

6) 享禄2年 1529 年 8 月 24 日日本朝通鑑、上杉憲寛が安中城攻撃、小幡氏が憲寛から離反、9 月 12 日安中に陣する憲寛を破る。(安中城)

7) 天文2年 1533 年鶴岡八幡宮造営勸進東国武士を記した快元僧都記 2 月 9 日条、碓井郡領主として、安中宮内少輔、飽間、依田、諏方、このころ、諏訪氏は松井田、安中氏は安中、築瀬、飽間氏は秋間、依田氏は後閑板鼻を本拠。(安中氏)

8) 天文23年 1554 年 8 月 2 日北條氏が安中源左衛門を江戸市谷八幡の代官職に。(北條方安中氏)

9) 弘治2年 1556 年 1 月 16 日古河公方足利義氏感状写しに上州安中城における合戦に於いて、森孫八郎の活躍をほめる (安中城)

10) 永禄元年 1558 年 閏 6 月 18 日北條氏康安中越前守重繁に吾妻谷へ出陣命ずる。(北條方安中氏)

11) 永禄2年 1559 年 4 月安中記によれば、安中忠政は安中家中で秋間七騎の一人与力 12 騎足軽 55 人知行 1100 石余の窪庭図書に代替え地 2073 坪 (6840m²) を与え (、安中志窪庭観音堂) 榎下城から野尻に移り、安中と改めた。 安中城の鬼門除けに熊野神社建立 祈願所真言宗妙光院 安中の地名は安中氏の入部によって生まれた。(上杉方安中城)

安中記は野後改安中城の規模について 東西 200 間 (360m)、南北 100 間 (180m)、1 重 (単郭 64800m²)、櫓 2 つ、西 (西)、寅卯 (東北)、想門 3 つ、追手 西 (西)、牛 (南)、卯 (東) 近世安中城郭内 約 725m (650m) x 425m (300m) 城内約 195m x 225m 郭内 50935 坪 168100m² 城内 7300 坪 24000m²

12) 安中氏は上杉憲政の退去により、北條方として安中源左衛門射、安中越前守。(北條方安中氏)

13) 安中氏は北條に離反して、上杉景虎に服属。関東幕注文、255 名に総社衆安中、足利衆安中将監が含まれる。安中氏は総社衆に属しているが、上杉謙信の元、長野氏の箕輪衆と信玄の侵略に対応している。(上杉方安中氏)

14) 永禄5年 1562 年 2 月 1 日長尾景虎小泉城富岡重朝書状に武田信玄が諏訪城 (松井田城) に攻め寄せたが、安中氏が打ち破り大勝利と伝えている。松井田は前年諏訪氏が上杉から離反、武田に従い、安中重繁が松井田を攻略して、諏訪氏を没落させ、その所領を併合し、在城したと考えられる。(黒田基樹) (上杉方安中氏)

15) 永禄5年 1562 年 5 月 17 日武田信玄倉賀野諏訪安中の苗代を薙ぎ払い、旧暦 5 月 17 日は麦秋であり、収穫時期。5 月 22 日上杉輝虎が厩橋城の北条高広の連絡により、対応を沼田城栗林政頼、長尾伊勢守に伝えている。(上杉方安中氏)。

16) 永禄5年 1562 年 9 月 15 日信玄の侵略により、安中城落城 那須資矩書状 安中の地被属本意候 安中城武田方に属す (永禄6年 1563 年 5 - 9 月説あり) 甲陽軍鑑は永禄6年 2 月 27 日信玄は安中越前守重繁の守る松井田城、嫡子左近大夫景繁の守安中城を攻め、安中景繁は直ちに降伏したため、本領安堵、重繁は降伏後、城を没収され、成敗された。安中氏は武田氏に従属する国衆である、先方衆として、存在。(武田方安中氏)

17) 国立公文書館所蔵 武田家分限帳 御一門内藤氏 250 騎、信州先方真田 250 騎、和田 70 騎、西上野先方小幡 500 騎、安中 150 騎、依田 80 騎、木部、倉賀野、高山、白倉、海土尾、各 50 騎、その他 6 名 155 騎等 これで西上野における安中氏の勢力がわかる。(武田方安中氏)

18) 永禄6年1563年2月10日安中越前入道宛信玄書状、信玄より上杉方の進行に備えるよう指示、松井田城へ出張することにも知らせている。(武田方安中氏)

19) 永禄7年11月8日武田信玄から松井田城小山田昌成に、真田幸隆から安中越前守重繁が上杉方と通じる密書、安中越前守、嫡子左近大夫景繁に家督を譲り引退。 永禄9年1566年西上野、上杉武田抗争激化。4-11月上杉方城侵略される。閏8月27日信玄、安中越前守入道重繁に書状、9月29日箕輪城落城。 利根川以西の西上野は武田領に。(武田方安中氏)

20) 天正3年3月24日武田勝頼、安中左近大夫景繁に諏訪上原への出兵を命じている。4月長篠の攻防開始、5月21日設楽が原で両軍激突。織田徳川3万、武田1万5千。安中左近大夫重繁討死。 上野志では安中城は安中氏滅亡後、「安中亡び落城の跡、安中討死の末葉の士、民となり、武家、百姓の田畑作り場」とある。(安中本家滅亡・安中廃城)

21) 長篠後の安中氏 天正7年9月17日武田勝頼朱印状 安中七郎三郎 天正10年1582年1月木曾義昌、織田信長に、織田軍岩村から、伊那谷、高遠から諏訪へ、2月17日織田氏、大島城に立て籠もる武田方の安中七郎三郎らを攻めて落城させる。3月2日仁科五郎信盛(勝頼弟)籠る高遠城落城。諏訪高島城でも安中七郎三郎が在城していたが退いた。3月21日織田氏の指揮下の安中城に織田信房在城(織田方安中氏・安中城存在)

武田領甲斐、信濃、西上野は織田信長が接收。天正10年1582年3月19日上野国、信濃国佐久郡、小県郡は滝川左近将監一益に与えられ、関東管領を命じている。箕輪城入城、4月中旬厩橋城に移る。滝川儀太夫を沼田城に。 上野国の内藤、小幡、和田、由良、長尾、安中左近(七郎三郎、上田、木部、高山、深谷、成田、倉賀野、信州真田、人質を出す。五月滝川一益 安中町郷に伝馬定書(安中町初見) 安中氏の城下町として宿が形成されている。

22) 天正10年1582年6月2日本能寺の変 6月7日厩橋城へ伝えられる。6月18日北條氏直は上州武州の境、金久保(上里町)に進出、滝川一益と対戦。神流川合戦。上野国武士、滝川方に参戦。6月20日滝川松井田に撤退。2000騎で碓氷峠を超えて、小諸に。安中氏、北條氏に従属、鉢形城主北條氏邦の指揮下、他国衆に(北條方安中氏)

23) 天正15年5月20日-29日松井田城普請、同時期箕輪城も10日間普請。10月10日安中七郎三郎、松井田に在城。 天正15年1587年12月3日秀吉、関東奥羽両国惣無事令発令。沼田問題で秀吉の裁定。天正17年1589年7月21日利根川以東の沼田領は北條氏に渡された。11月3日真田の名胡桃城を北條が攻略。(北條方安中氏)

24) 天正18年1590年正月5日小田原城攻め、徳川家康東海道、前田利家、上杉景勝、真田昌幸、北陸道を碓氷峠から上野国へ。

北條方上野国防備体制。毛利文書北條家人数覚書 関八州諸城覚書 毛利文書関八州城之覚

北條氏邦、鉢形城、深谷城、前橋城、倉賀野城、箕輪城、沼田城等5000騎 大道寺政繁(川越城主)松井田城1500騎 等総勢17150騎 天正18年3月1日秀吉、32000の軍勢出陣、29日山中城攻略、3月15日松井田で衝突、25000碓氷峠を超える。4月7日秀吉、付城構築を命ずる。14日松井田根小屋焼き払い。19日総攻撃、20日松井田城は開城降伏した。28日までに箕輪城、厩橋城開城、4月末までに上野国の諸城攻略、6月14日北武蔵の拠点鉢形城開城。

安中城主安中景繁籠城から、小田原城脱走降伏?滅亡? 6月23日北條氏照の八王子城落城、北條氏規も韮山城このころ落城。7月5日小田原城北條氏直投降。北條氏滅亡。 北條傘下の武将達は所領を失い、町人、農民に、安中氏の一部は真田信繁に士官、大坂夏の陣で参戦している。出羽最上氏、安藤氏、秋元氏、上杉氏、織田信雄、成田氏等に仕えている。又、新しい領主井伊家に仕えたものも多い。

○中世安中古城は近世安中城本丸に所在し、規模は安中記により、東西200間(360m)、南北100間(180m)、1重(単郭64800m²)、櫓2つ、西(西)、寅卯(東北)、想門3つ、追手 西(西)、牛(南)、卯(東)とすると、発掘された小学校の中世堀から西、近世安中城の西端までと一致する。南北も近世安中城の北の要害壁方南の要害壁に至る。勢力の与力150騎、とすると、よく符合する。その築城年代も少なくとも、享禄2年1529年までさかのぼることに成る。又、廃城年代は織田信房の安中入城から天正3年までの存在が確認され、それ以降見られないことから、滝川一益の安中町掟の際、破城されたのではなかろうか。

窪庭氏館は規模はその代替え地と勢力から考えて、与力12騎足軽55人知行1100石余代替え地2073坪(6840m²)とすると、安中市の安中城西門外も台地上の高地であり、規模も妥当で検討の余地はあるが、やはり、見晴らしのいい、北側台地壁に面していると考ええる。

2 近世安中居館

近世安中城の既存研究は廃墟と化した安中氏の城跡に井伊氏が入府し、築城、内藤氏が改修したというものです。

本稿では城郭統制からこれらを検証し、安中城が内藤氏の新規築城であることを明らかにし、井伊氏から前期板倉氏まで安中城は法制上存在しないことを実証します。

1) 井伊直勝 元和元年1615年2月安中藩成立3万石 安中志、は「春、佐和山より引き移り、安中御城地の御普請始まる。安中の上野尻、谷津、下野尻三か村の石高の内に、御屋形を立て、4月には安中宿や町並の縄張を行つた」とある。 元和元年1615年5月8日豊臣氏滅亡 閏6月13日元和一国一城令布達 各領国の居城以外の支城を破壊する。城郭所有数制限 急度申入候、仍、貴殿御分国中居城をハ被残置、其外之城者、悉可有破却之旨、上意候 壬6月13日 松平長門守殿 安藤対馬守重信、土井大炊助利勝、酒井雅楽頭忠世 7月7日武家諸法度新規築城禁止 全修理届出制

寛永12年1635年6月21日3代家光 改正武家諸法度 堀石垣は許可制、作事は原状復帰届け出不要 外様大名の転封 国主城主1万石以上 正保城絵図について 寛永21年1644年9月家光、国絵図、城絵図の聴衆を命ずるも、安中は城ではなかったため、調査対象ではなかった、国の重要文化財として現存するものは内閣文庫に63城絵図、元153城以上あったと思われる。

寛永15年1638年島原の乱後規制強化

正保2年1645年6月23日井伊直好3万5千石三河西尾に転封

天和3年1683年8月20日5代綱吉武家諸法度まで 作事元通り届出

宝永7年1710年4月15日6代家宣武家諸法度 土木も元通りでなくて可、許可制、作事は制限なし、

但し、享保2年1717年3月14日8代吉宗は元に戻す。

C) 水野元綱 正保2年1646年6月28日三河新城より2万石、碓井関所預けられる

承応4年1655年武鑑 明暦2年1656年武鑑 万治元年1658年武鑑 官位、石高のみ大名家格制未成立か

水野元知 寛文5年1665年10月26日世襲

寛文7年1667年5月23日水野元知発狂 28日領地没収 安中關所

D) 堀田正俊 寛文7年1667年6月7日相模より2万石

堀田正俊は慶安4年1651年8月14日1万石で大名に列した。文政2年1819年4月18日城主格となる。天和元年1681年老中

寛文9年1669年武鑑 上州安中とのみ記入(城主は御居城と記入) このころ大名家格制確立か

絵図1 安中御座舗図 日産厚生会佐倉厚生園所蔵下総佐倉藩堀田家文書。

絵図2 1683年天和3年、諸国古城之図上野安中 広島浅野文庫蔵 安中が当城でなく、古城に収録されている理由について、安中築城は1705年であり、編纂時は居所であり、城は存在しないため、古城であった。

絵図3 日本城郭史資料 上州安中 陸軍参謀本部作成 全国1400城絵図城塞積史の写しか内容は浅野文庫絵図とほぼ同様、手書き鉛筆写 城塞積史は東京偕行社旧蔵織細焼失した幻の城図集、旗野史郎編纂、陸軍本邦築城史編纂委員会

絵図4 上州安中居館之図 元禄10年丁丑1697年始冬下旬 金沢市立図書館所蔵

堀田氏居住延宝（1673年—1680年）以住之図也 95 x 140 cm 本図は前田家尊経閣文庫安中町、安中2図の原図である。

絵図5 1697年元禄10年以降、安中町 諸国居城之図有沢永貞 安中町 前田家尊経閣文庫蔵 29 x 40 cm

絵図6 同 個人蔵、安中町 前田家と同一の内容

絵図7 1697年元禄10年以降、上州安中 諸国居城之図有沢永貞 安中 前田家尊経閣文庫蔵 29 x 40 cm

絵図8 同 個人蔵 上州安中 前田家と同一内容

天和元年1681年2月25日下総古河へ9万石転封 大老就任**最終赴任地は千葉県佐倉**

○堀田家所蔵安中御屋舗図は台地の北に面し、今の本丸の位置に、西の空堀構築前の姿を描く、最も古い絵図である。御殿の配置は堀田家居住延宝以来の絵図とする前田家本の原図と同様であるが、浅野文庫本を含めて、微妙な御殿配置や折れの状況に差があり、年代差を感じさせる。城下町も大名小路が蔵守屋敷で分断され、西門へは北側に武家屋敷を大きく迂回することに成り、西門からは大きく、東へ回り、東門、大手門、北門からの通路が合流して城内へ導くことに成る。今の安中城、郭内の規模は堀田氏時代の構築である。

E) 板倉重形 天和元年1681年5月21日下総国関宿より1万5千石

天和元年1681年武鑑 上州安中

天和3年1683年武鑑 居城 上州安中 (居城と記す始め) この頃板倉氏は城主格の可能性。

安中志も板倉重形も項に安中御城下、後世に伝え数々としている。 **貞享2年1685年『御代々留』によると、板倉重形太鼓櫓突き始**

板倉重同（あつ） 貞享3年1686年7月26日死去 9月25日封を継ぐ

元禄元年1688年武鑑 居城 上州安中 元禄4年1691年武漢 居城 上州安中 元禄8年1695年武鑑 居城 上州安中

元禄15年1702年7月4日板倉重同陸奥国菊多郡泉へ転封

○前期板倉氏は安中着任後、2年目に城主格となり、築城の資格を得ているが、築城を申請した形跡はない。貞享2年1685年太鼓櫓を建設したのみである。

3 近世安中城

F) 内藤政森元禄14年1701年7月4日奥州泉より2万石

享保2年1717年吉宗武家諸法度 城郭規制元和へ戻る

寛永11年1634年10月28日内藤政晴2万石大名に列せられる。この時点では城を持ってない。

○宝永2年1705年正月5日城主に列し、安中城築城を許可された。安中記は宝永6年170

9年9月4日普請開始と伝える。正徳2年1712年8月15日城地に行く 安中城の築城は内藤政森、宝永6年1709年である。

絵図9未知 宝永2年1705年正月5日の安中築城に際し、幕府に対し、武家諸法度に基ずく**新**

規築城許可願いが構造等を明記した絵図によって提出され、老中奉書による許可状が発行されたと
思われるが、まだ発見されない。

宝永2年1705年武鑑 居城上州安中 宝永7年1710年武鑑正徳3年1713年武鑑享保
3年1713年武鑑享保17年1732年武鑑

○城郭の修理、本丸北東城壁崩壊修理

絵図10 1721年享保6年8月、内藤丹波守 本丸北方土手崩れ修復願 上野国安中城修理

絵図 本図には享保6年戸田山城守の裏書が見える。戸田山城守忠真は宇都宮城主であり、老中
として、修築許可をする立場である。 個人蔵 83 x 59 cm

享保18年1733年4月6日病氣藩主辞去内藤政里継ぐ

○城郭の改築 享保18年1733年安中記によると、内藤政里、御殿に玄関を立て、西門東門
を建て替え、西門の外に土手を築き、町口の堀の屋根を瓦葺とした。絵図11は政里の改修後の完
成図である。

絵図11 1736年享保21年辰年5月改め 内藤氏

上州安中御城内絵図 129 x 95 cm 二の丸倉庫分離前絵図。豊田市郷土資料館蔵 稲荷はあ
るが石段3段。煙硝蔵なし。 袋書に「政里公は仰せを蒙り、森宇左衛門正儀が上州安中御城内の
御郭・侍屋敷目で悉く惣坪数の吟味を遂げ、壹枚の大絵図を櫛田友右衛門に認めさせ仕立て置いた
もの」

元文6年1741年武鑑 同

内藤政里 延享3年1746年4月晦日卒34歳

内藤政苗 延享3年1746年6月23日継ぐ

寛延2年1749年2月6日内藤政苗（みつ）三河挙母へ2万石転封

内藤氏は明治まで挙母藩主

絵図12 1733－1749年享保18年一寛延2年 内藤政里回収以降 安中城曲輪図 2
08 x 111 cm 豊田市郷土資料館蔵絵図

○二ノ丸に土堀が構築され通路と蔵屋敷が分離される。鉄砲場なし。稲荷10間四方高さ5尺とさ
れる。煙硝蔵明地。

絵図13 1733年以降で明治大学本以前、安中城曲輪図以降 安中城図 美濃部家蔵 安中文化
会復刻

○二の丸分離後。本丸北部の虎口が変更される前。稲荷構築。煙硝蔵あり。鉄砲場初見。本丸裏口
改修

絵図14 享保6年1733年以降 寛延2年1749年まで 上州安中城絵図 安中市史復刻
明治大学刑事博物館蔵

○本丸北部の虎口変更。稲荷台2段に高く変更。裏に煙硝蔵あり。堅堀を潰し、崖面を石垣にし、
がけ下に水場がある。

G) 寛延2年1749年2月6日奥州泉から遠州相良に転封の板倉勝清2万石

板倉勝清は寛延元年1748年11月15日城主となり、2年2月6日安中城を賜る。

宝暦12年5月1762年9代家重 無城主大名の居所造営緩和令 修理は届け出不要 新規構
築のみ許可

宝暦5年1765年武鑑 居城 安中 明和2年1767年正月老中就任1万石加増3万石に
安永9年1780年まで幕政に関与 6月28日卒

板倉勝暁（とき）安永9年1780年8月14日継ぐ 寛政4年1792年8月12日卒

板倉勝意（おき）寛政4年1792年9月29日継ぐ 文化2年10月10日卒

板倉勝尚文化2年12月継ぐ、文政3年8月26日卒

板倉勝明（あきら）文政3年1820年10月28日12歳就任 名君 安政4年4月10日卒

板倉勝殷（まさ）安政4年1857年5月11日継ぐ、明治4年7月14日廃藩置県 8月29日東京へ

慶応3年1867年10月、国持大名20家、准国持大名3家、城主大名125家、城主格大名19家、無城主大名90家、城主格に昇格すると築城を許可され、居所を城郭と公称することが出来た。無城主大名は陣屋または居所とした。

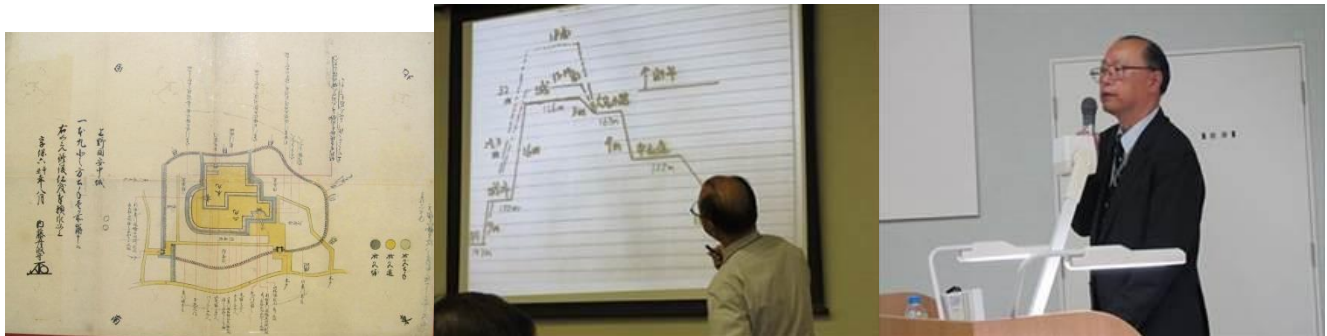
武鑑では城主格以上の大名が御居城、無城主の大名は在所とされた。

絵図15 明治初年 後期板倉氏 群馬県指定重要文化財小野直文書 安中城絵図 安中藩士小野富三郎

○内藤氏の明治大学本絵図以降、板倉時代の改修について安中板倉家文書の安中藩内図安中城絵図を調査中です。

幕末以降の多彩な絵図群、縄張調査に基づく残存遺構の解明については、調査継続中であります。

平成25年5月29日稿了



2・会津の心 砲術、兵法、戦歴と荒廃、復興、

（平成25年6月2日の安中市教育委員会主催会津若松城下絵図屏風展示会併催講演会資料ですが、当日の来場者にのみ配布されていますので、再録させていただきます。）

会津の心をオリジナルの資料で見る 会津の心、長沼流、山神流兵法、井上貫流砲術 国難への対応、蝦夷警備、房総半島警備、品川第2台場資料 戊辰戦争鳥羽伏見の戦い、会津戦争、斗南移住 明治35年実測図に見る破壊された城下町 逞しい復興の軌跡 公園設計図、商工地図、鳥瞰図等

1・会津若松城下絵図屏風の解析（省略。展示会図録に収録のため）

2・会津若松城跡

城郭の完成は加藤氏、寛永16年1639年天草の乱、戦う城。会津松平藩初代保科正之は完成後寛永20年1643年平和な時代。治める城。

天正18年1590年秀吉が会津に入り、蒲生氏郷35歳に42万石、さらに92万石を与え、文禄元年1592年夏から2年5月まで地名を若松とし、城を鶴ヶ城として、伊達、徳川の抑えとした。城は湯川の扇状地に構築され、台地の先端に本丸、東に2の丸、3の丸と弱点である、東に3重の防備を行い、加藤明成の時代、寛永16年1639年、天草の乱の際、当時の大砲に対応するため、堅固な北、西の出丸が構築され、白河街道の付け替えとともに、大手が東から北へ変更され、北出丸東口が大手となった。大手口の防衛は正面の出丸、側面の本丸、背面の二の丸隠し郭の3方から行われ、戊辰戦争に於いても新政府軍はついにここを突破できなかった。南方が弱点となるが、当時は牛沼があり、堀の役割を果たしていた。藤崎は西出丸南側の城壁を階段状に2重にして、銃列を2重にしたと述べている。会津城の歴史 慶長3年1598年氏郷の死により、秀吉は上杉景勝120万石を与え、伊達、徳川の抑えとし、秀吉死後、小田山からの弱点を克服するため、西へ4kmのところの神指城を構築、家康に対応したが関ヶ原の敗戦により未完に終わった。 慶長5年1600年関ヶ原後、家康の娘婿

蒲生秀行を60万石で再度会津に移封。上杉の冴えとしたが、蒲生家は断絶した。慶長16年1611年大地震、天守に被害、加藤嘉明40万石、白河街道付け替え、鶴ヶ城大手変更、**加藤明成、天守改築、北出丸、西出丸造成** 加藤家の滅亡により

会津松平藩

寛永20年1643年保科正之（2代秀忠の4男3代家光弟）23万石、預領5万石共28万石、会津松平家藩祖として入府。9世226年幕末まで存続した。文化5年1808年蝦夷、樺太警備文化7年1810年浦賀警備、8年1811年三浦鎌倉3万石替地、10年1813年ロシアとの和議により、浦賀警備は浦賀奉行に、弘化4年1847年2月江戸湾房総沿岸警備、富津。竹岡陣営、1397名、大砲70門、小銃400丁、新造船19隻、嘉永6年1853年品川第2台場警備、安政2年幕府は蝦夷地を松前藩から公取、5藩に分割、さらに安政6年1859年庄内、会津を加えた。士別、斜里、紋別が会津領に、戸切地陣屋構築。文久2年1862年会津守護職拝命、畿内の治安維持、非常時の軍事指揮権を持ち、大坂城代等を統括した。慶応3年1867年12月孝明天皇崩御、慶応4年1868年8月会津戦争、9月22日開城。明治2年1869年斗南藩3万石設立移住。翌年17000人余移住。城は明治7年1874年4月取り壊し、862円で売却された。昭和40年天守再建して今になる。

会津若松城の規模

会津盆地は東西13km、南北34km。城下町は南東に位置し、標高210－230m、東西3km、南北2,5km。郭内は東西1,8km。南北1,2km。郭内は3－7mの土塁と16－17mの水堀に囲まれ。16の郭門が設置、3か所は不明門。半鐘で割場からの火事を知らせた。大手は甲賀口門から北の出丸東門、**城内の規模は明治41年毀された3の丸を含めて、東西760m、南北500m**、城は広大といえず、外郭も16もの城門があり、防衛上兵力が分散するが、会津松平家譜に伝える、保科正之の**1国1城の小城は堅固成るを以て主とし、天下の府城は万民の便利安居を以て第一とす**、これは江戸城を述べたものですが、会津城についても、江戸城の支城として、武田信玄の人は城、人は石垣、人は堀という考え方で、北部防衛戦線の拠点であって、北を仮想敵国と考えており、会津松平はここで戦うことを考えていない。戊辰戦争時の幕府の裏切りや南からの来襲は想定されていなかった。

3 会津の心 兵法・砲術・築城

兵法 江戸時代の兵法は実戦がなくなり、戦争技術の継承のため、学問として体系化された。儒学の影響により、武士道、士道等倫理的側面が強くなり、陣法、戦法の研究は下火になった。寛永12年1643年保科正之は始め**河陽伝**（戦国末期に発生した楠流の系統、心性を悟り、諸民を敬愛するを上、計謀によって学ぶを中、戦術をむさぼりなろうを下。正心修身、治国平天下の大義、を基本とし、賊徒を討伐するための智謀、戦術の妙を教えるもの。）山神流、太子流 明暦3年1657年甲州流 河陽伝に戻り、元禄1688年に甲州流、再び、河陽伝、天明8年1788年長沼流、幕末に洋学、蘭学とともに近代兵法が伝来し、会津藩も安政末頃1859年蘭式歩兵、慶応年1865年仏式軍法により、軍制改革を行い、部隊を朱雀、青竜、玄武、白虎に編成。

長沼流兵法 山鹿流と人気を二分し、門弟1000人を数えた。長沼外記澹斎始祖 甲州流軍学者、戦国時代の戦史研究、孫子等武経七書を学び、明の陣法、操練に、西洋火術を取り入れた。ちなみに現存日本最古の兵法書は平安時代末期の闘戦経といわれますが、伝えたのは鎌倉時代源3代の兵法師範大江家で、戦国期の実力主義の前、中国兵書孫子の兵は詭道なり、調略というだましあいとした思想が日本の国風に合わない、知略ばかりに頼れば、春秋戦国時代のように国を危うくする。兵としての精神、理念も学ぶ必要がある。金剛山麓に居を構え、楠正成もいた。源家古法と伝え、兵としての思想、精神、理念、心法を説く。長沼流も3分は書、2分は口伝、5分は自得にあり、

兵要録22巻の練兵で兵談、鍊銃、山神流築城法、出師で陣法、戦格で孫子講習

山神流兵法 山神政光流祖 山本勘介と親しい 芦名盛隆に招かれ軍師 4代の向井吉重から保科家に入る。会津藩教育孝に、方5尺高さ1尺の箱に砂を盛、水を注ぎ、大小円形方形数10種の金へらで、土塁、堀、櫓のかたちを作る。要は地形を考え、歩足の状況、攻守の法を会得する。その法は方、円、曲、直、鋭の五法より、平城、平山城、山城の三法にして、極秘大星金鳥という免許が授かる。次に、城郭の縄張のできたものは本位に進み、境目繋ぎの法を印可、これを得れば本位に進み、六花練兵奥秘の伝を許す。その法は古陣図解、軍要宝鑑抄等なりとしている。

砲術、軽筒（薄鉄で銃身を作り、皮で包み、題は桐で馬上筒）の稲留流、永田流、短筒の種子島流、長筒、槍筒、仕掛筒、廻筒の夢想流、自由斎流、狼煙の荻野流、一味流、棒火矢、乱火（鉄弾に焼薬を入れ導火をつけ発射）、狼煙の新格流、諸葛流、棒火矢の石橋流、智徹流、子母砲の堅昆流、6尺の長筒の北條流、高島流 14流派 角場は日新館に5区、師範の宅地内、鉛は現品支給、火薬は分規金にて各流派調達、小筒の目標は15間（30m）、大筒は弾により15－20丁（1600－2200m）を目標とした。大砲の試射は猪苗代湖の湖上でも行われた。追鳥狩は会津藩最大の軍事訓練であった。

4 品川台場第2台場

嘉永6年1853年6月アメリカ東インド艦隊司令長官ペリー浦賀来航、7月23日12基の品川台場構築命令、8月21日1－3台場工事着手、安政元年1854年5月3日1－3台場完成。1月11日ペリー再来航、安政2年1855年10月2日安政大地震、死者は7000人から1万人、第2台場は会津藩が警備、13名の守備兵が即死。台場は江戸湾の奥、隅田川河口に構築され、巾は御殿山下から第3台場まで3kmにわたり、6個の台場が完成した。安政元年1854年3月3日条約が締結され、4、7以下の台場の工事は中止となった。江戸湾沿岸の12ポンドカノン砲の射程2500mに守備できるように、沿岸から2km、浅水深に設置された。砲台前方4－5kmは水深4－5m、大型戦艦が艦載砲の射程距離まで侵入できない位置にある。ボート砲のような小型船舶積載砲に十字砲火を可能に。生麦事件の際、英国のボートが第1台場の側間を通り、品川湾の測量をしている。このボートには5門の大砲が乗せられるとしている。射程は24ポンド、12ポンドカノン砲で2500m、機能は正面迎打ち、左右から横打ち、背面の野砲で追い打ち、ペリー艦隊のサスケハナは喫水6、2m、9インチ榴弾砲の最大射程3100m、最も低いサラトガで5mでいずれも台場を標的に出来ない。第2台場は品川台場正面中央の最大の台場であった。正面、左右正面、左右側面と背面の6面からなり、34000m²、18の大砲砲座を備えている。

5 井上貫流文書 武衛流第4世砲術師範

井上貫流は元文元年1736年9月忍藩で生まれ、文化9年1812年12月徳丸が原調練の4か月後73歳で死去、武衛流4世、威遠館演銃場主人、文化5年1808年正月幕府鉄砲方井上左太夫の推挙で幕府鉄砲方与力に推挙、同年蝦夷地警備高島陣屋禦防卒長、蝦夷警備の記録を多く残している、展示の「文化5年辰年持場割」は蝦夷地の防衛全体の記録で、仙台、南部、会津、津軽4藩4100人の持場を記録している。会津藩についても、樺太700人、宗谷、斜里、利尻600人、松前、白神崎300人、砲術方森重靱負や御鉄砲方西尾謙次朗の名がみえる、井上貫流は石狩湾高島陣屋で津軽藩を担当、多くの記録を残している。安政6年1859年9月幕府は会津藩等4藩に東蝦夷を与え、警備を命ずる。

6 幕末の砲術（別覧参照）

7 戊辰戦争

慶応4年1868年3月京より帰った会津は軍制改革に踏み切り、正規兵2800名、砲兵、農民

兵、町民兵を加えた7000名。

錦絵 幕末歴史絵の中で城郭錦絵、合戦錦絵、風景版画、鳥瞰図、道中図、市街地図版画がある。歌川豊国の2大弟子、国貞と国芳の弟子 芳虎、芳艶、貞秀が多い。鳥羽伏見の戦いの一例、5枚続きの山崎合戦官軍大勝利之図もその代表例である。城中大火の図は歌川芳藤が描く、大坂城炎上を描く。 会津戦争も明治になって多くの錦絵が残されたが、薩長政府を憚って、芦名の会津敗走に託した風刺絵として残されたり、官軍勝利として戊辰絵巻等に描かれている。

8 斗南藩設置

明治2年11月生まれたばかりの容大（かたはる）に家名存続、南部3万石か猪苗代3万石か、会津藩士、5000名は帰農、4000戸のうち2800戸17000名が南部へ、陸路は16泊17日で三戸へ到着、斗南藩設立。明治7年には1万人が会津へ帰った。

陸奥出羽国郡行程全図 橋本玉蘭斎 空飛ぶ絵師 全国の絵地図錦絵鳥瞰図 浮世絵師としては五雲亭貞秀 横浜絵等都市鳥瞰錦絵で有名 1807年—1878年 歌川国貞の弟子 会津も斗南も描かれる。

荒廃した原風景

1 明治35年**農商務省北会津郡土性図** 1902年1万分一地質図

地理調査所100年史や明治37年の地理調査所事業報告によれば、最初の近代的地図の伊能実測図に続く、日本政府の近代的地質調査機関として、明治11年5月3日内務省地理局地質課が設置、明治13年3月5日1880年内務省勸農局地質課に移管、全国の地質図、土性図の整備計画、ところが日本には地質、土性調査のベースとなる地図がないため、地図整備から始めた。高さは気圧計、位置は天文測量、地形は平版測量（導線法）、5万分一原図、土性図用10万分一地形図、地質図用20万、40万分一地形図を作成し、明治15年2月13日農商務省直轄の地質調査所として設立された。明治21年伊能図以来最初の実測日本全図、160万分一日本帝国全図を陸地測量部に先んじて作成した。

土性調査は耕地、廢地の調査目的、産物の土質、開墾の成否、牧場の現況、農事全般、標本採取、土地の高低、

土性調査の責任者、**恒藤規隆は福島県の依頼による北会津の特別土性調査を行い、明治32年地形測量、34年土性調査を実施、35年に1万分一土性図、説明書を作成した。**土性調査は農業の基礎として重視、各県からの依頼も多かった。

1 描画領域は南北8面東西4面+1面で2面空白での31面。西半分到会津盆地、東側に背あぶり高原と猪苗代湖を描く。

2 近代測量による最初の会津地域の本格的な実測図である。陸軍には各地方部隊による迅速地図があり、会津については明治23年6月測量の新発田の歩兵第15旅団司令部による2万分一迅速測図がある。陸地測量部の正式2万分一地形図は会津地方がなく、陸地測量部の会津は明治43年の2,5万分一が嚆矢となる。

3 日露戦争後の軍拡により明治41年歩兵第65連隊、練兵場ができる直前の三の丸が描かれる貴重な記録

4 1万分の一という大縮尺で、城は堅固な要塞を残し、郭内はほとんど壊滅、外郭の堀の一部を残す、城下町はほぼ残されているという戊辰戦争後の状態をよく伝えている。

5 神指城跡 慶長5年1600年5月10日12万人を動員して二ノ丸工事を行い、6月1日には本丸二の丸の土塁と石垣、水堀と門が完成、10日工事中止。家康との臨戦態勢に入る。関ヶ原の終結により、未完に終わった、現在、部分的な土塁しか残存しない



神指城跡が本図では本丸、二の丸とも土塁が明瞭に残存し、堀跡も見て取れる。図面上その規模は二の丸は東西580m、南北650m近くに及び。阿賀野川に面した状況がよく描かれている。ただ、工事は中止されており、全容は未定であるが、石田明夫氏によると築城に際し、移転さ

せられた村は13か村、南北5km、東西1, 5kmに及ぶ広大なものであり、完成時の規模が大きいものであることが想定される。(添付図の範囲には神指城は含まれていない)

力強い会津の復興

1 市街地図の変遷に見る会津

大日本職業別明細図福島県 昭和4年12月若松市等商店記入袋付 会津市史で復刻される大正15年6月12日版、本図は大正6年木谷佐一が東京交通社を起こし、1877-1931年 昭和30年代まで2000-3000種類刊行されているとのことです。表裏、写真広告入りで全国の商工業の実情を知ることが出来る優れものです。広告写真豊富で当時の商工業の実情が詳細にわかる基本図

会津若松市街地図 明治32年・明治41年・明治44年・明治45年・大正3年・大正6年・大正9年・昭和2年・昭和3年・昭和8年・昭和9年・昭和11年・昭和12年・昭和15年・昭和16年・昭和24年・戦後・年代別21図(本図も一部もに展示)

2 若松公園設計図 本多静六 慶応2年1866年生まれ、明治35年の日比谷公園を皮切りに35年にわたり全国の著名な公園ほとんどの設計に携わり、日本の公園の父といわれた。昭和27年85歳で死去。大正6年若松公園設計方針を作成。

3 鳥瞰図 鳥山志摩六 初三郎の猪苗代町の鳥瞰図原画は今開催中の東北歴史博物館「美しき東北の町並 鳥のまなざし吉田初三郎の世界」展に出展されています。

3・幕末銃砲比較 会津展開催に際し、諸家の研究成果により城郭攻撃のための、幕末戊辰戦争時の大砲、小銃の性能比較を試みた。

和砲 前装滑空砲球弾、大型火縄銃 手に持てるのを抱えの大筒、1貫筒を和製大砲。

臼砲 **モルチール砲** 前装滑腔砲、球形炸裂弾、高角射撃、口径大きく、砲身短い。高い弾道で土塁や城壁の向こうを焼き玉で破壊炎上させた。携臼砲ハンドモルチールは20センチ口径で野戦銃砲として2-4人で担架で担ぎ移動させた。官軍が**鶴ヶ城攻略に使用**。29ドイムで最大射程2700m、**20ドイムで1500m**、

榴弾砲 **ホイッスル砲** 炸裂弾をうちだし、目標上空で炸裂。曲射撃、台車で移動、カノンより砲身短い、**最大射程1800m**

ボートホイッスル砲 前装滑腔式青銅砲。敵前上陸するときに手漕ぎボートの船首の供えられた小型砲、最大射程は12ポンド砲で992m、上陸後も陸上砲として使用された。

加濃砲 **カノン砲** 前装滑腔式野戦砲 **守城砲、要塞砲**、鉄球平射砲。移動させることがない拠点防衛の巨大砲、品川台場や弁天台場、天保山台場は沈没しない海上要塞と位置付けられた。**最大射程2800mの24斤(ポンド)砲等**が供えられた。

四斤山砲 前装旋条砲突弾、野砲は330kg 射程4000m、**山砲は銃身100kg、砲架。車輪で総重量218kg、有効射程400-600m、最大射程2800m**、1859年フランスで開発された前装ライフル式青銅製洋式野戦砲 幕末明治の主力砲4kg(仏製の斤は1kg、英製の斤はポンド640g)の長弾使用 ナポレオン砲(12斤カノン砲)と呼ばれることもあった。**戊辰戦争では軽量で分解可能、機動性に優れた山砲が使用**された。弾道は野砲と臼砲の間、放物線を描いた。

ガトリング砲 6銃身機関銃、ハンドルを回すだけで薬莢の取り出しと次弾装填ができ、1分160発-200発の連射、黒色火薬で銃身が詰まるという欠点、日本に3門、2門長岡藩、1門官軍戦艦甲鉄戦艦に装備 1門6000両

アームストロング砲 鋼鉄製、後装旋条砲、**戊辰戦争で使われた6ポンド野戦砲は口径6, 4cm**

、全重量250kg、最大射程3600m。162kg、命中精度高く、当時最新鋭世界最強とうたわれた大砲。佐賀藩が輸入し、国産化した。薩英戦争で射程2800mの24ポンドカノン沿岸砲を装備、英国の艦載砲は射程4000－5000mのアームストロング砲であった。砲撃後、砲身を下げる必要がなく、砲の仰角や位置を固定したまま、照準を狂わすことなく、連続発射が可能、会津戦争では1,5km離れた小田山から天守を砲撃。戦艦開陽や甲鉄戦艦に装備、

パロットライフル砲 前装旋条銃、戊辰戦争では3インチ野戦砲、砲身403kg、最大射程2700m。松代藩が小田山から鶴ヶ城を砲撃。命中精度高く、下関砲撃では米艦ターキャンがポンド砲を積載。



小銃

旋条銃の開発は軍制改革をもたらせた。散兵による遠距離からの狙撃射撃へ 弓槍が無用に 武士が不要に 城も不要になった。1860年旋条銃によって新たに歩兵・騎兵・銃兵の3兵を創設、廃藩置県後兵部省が回収した小銃は181012丁といわれる。

性能比較等は須川氏、保谷氏、日本銃砲史学会、幕末軍事史研究会、軍事史学会等のデーターによる

火縄銃 火縄式前装滑腔銃球弾 最大射程500m、有効射程100m 1分に2－3発、2000－3000発の耐久性、火種必要、天文12年1543年伝来。

ゲペール銃 高島秋帆が初めに輸入、徳丸が原で約100丁使用。火種不要。当初火打石式（燧石式すいせき）強い風で火花が飛ばされ使えなかった・有効射程100m、強いばねで命中精度が悪い。尖った火打石が手に入らない。1845年以降雷管式前装 滑腔銃球弾 雷管は起爆薬を容器に詰めたもの。命中精度低いが、射程100－300m 最大射程950m。

銃剣を装備できる。1丁5両、旋条銃の時代となった西洋から旧式銃として大量に輸入された。火縄銃が改造され、また、文久元年湯島銃砲製作所幕府鉄砲方江川氏1万丁ゲペール生産を2000丁旋条銃に変更。慶応元年1丁5両。4年1-2両と値崩れ。人間命中精度35m47%、75m31%、150m14% 命中率91m74, 5%, 182m41, 5%, 273m16%, 365m4, 5%

ヤーゲル銃 会津藩装備、雷管式前装旋条銃球弾、尖弾 命中精度良くなる。鉛玉を銃口から入れ、槊杖（カルカ）で打突して変形させライフルに圧着させる、威力があり、狙撃銃となったが、装填時間がかかった。到達距離、威力、正確性 弾丸の製造可能から。幕末横浜長崎函館から数10万丁の旋条銃輸入される

ミニエ銃 雷管式前装（ライフル）銃拡張式突弾 1840年フランスで開発 装填時間ヤーゲルの5分の2 人間命中精度 450m47% 射程1000m 命中率91m94, 5%, 182m80%, 273m55% 中心線から外れる距離発射後300m、保谷教授の実験ではゲペール銃4, 3m ヤーゲル銃90cm ミニエ銃26cm 慶応元年長州が薩摩名義でグラバー商会から購入した小銃、ゲペール銃1丁5両3000丁、ミニエー銃1丁18両4300丁、新政府軍総督が軍務官に要求した弾丸、ミニエー銃50万発、スナイドル銃2, 5万発、スペンサー銃2, 5万発 ミニエー銃は江戸城占領後、後装銃に改良され、元込めミニエー銃とされた。（スナイドル銃）火薬、雷管、弾丸が一体となったカートリッジが採用され、連続射撃が可能になった。ミニエー銃でも官軍は元込め銃、奥羽は前装銃であった。慶応元年18両、4年9両に値崩れ。

スペンサー銃 後装式旋条式7連発銃突弾 銃尾弾倉方式 射程700-820m 薩摩藩16015丁、佐賀藩2000丁購入。慶応2年元卸価格28両。後装銃の弾丸はカートリッジ式であり、輸入と供給ルートが必要であった。戊辰戦争は前装旋条銃主力の戦いであった。

バウムガルデン銃 慶応3年1867年4月会津の山本覚馬はドイツ人レーマンと4300丁の契約をし、300丁を受け取ったが弾薬供給の目途が立たず、使用できなかった。後装旋条銃。

博物館事業報告

1・銀塩写真、手彩色絵葉書の516枚発見

手彩色写真は約312枚、内城郭絵葉書が141枚、その他は町並絵葉書が大半を占める。銀塩写真は手札サイズが34枚、中判が9枚、大判が7枚、大判手彩色1枚。大判には江戸城、大坂城、西宮砲台の屋根付き、弁天台場、松山城、鹿児島市街、中判は姫路城、福岡城、函館港、弁天台場、手札は未知の城郭も含まれる。市街地航空写真が中判で20枚、両眼写真が16枚、これには城郭はない。手彩色写真は明治コロタイプ印刷に着色したもので肉筆画のように美しい。銀塩写真は今は亡き城郭の景観であるため、現状地を確定する作業は極めて困難である。それで、高松城天守銀塩写真をゲットしそこない、アメリカに持っていかれた苦い思い出がある。これらの絵葉書は検証の上、順次、展示会やメディアで公開していくが、急ぎ必要とされている機関には調査に対応したい。又、機会を見てしろはく双書として公開したい。

2・城郭絵図・絵葉書・錦絵等城郭資料の公開

上田市教育委員会からは春に城郭絵葉書の提供を依頼されていたが、整理が出来ず、お答えできなかった。上田城跡保存管理計画、整備基本計画を策定され、『上田城跡史料調査報告書』を刊行されるに及んで、待ったなしとなり、1か月の整理の結果、上田城絵葉書130余枚を開示、

内新規画像 61 枚の両面をスキャナー入力された。又、15 年前展示会で紹介しましたが、**明治 6 年測量大蔵省提出控上田城下町絵図** 6 枚を提供しました。

これまでの各地行政への公開は

しらはく双書 6 『甲府城資料』 2002 年を見られて、**山梨県埋蔵文化財センターに甲府城絵葉書と古絵図、明治期地図**を提供それらは 2005 年 3 月『調査報告書 222 集県指定史跡甲府城跡』として 600 ページ余りの報告書 2 冊に掲載されている。

幕府鉄砲方与力**井上貫流砲術資料**は東京都**江戸東京博物館**調査協力、博物館調査報告書第 18 集『幕臣井上貫流左衛門家文書の世界』 2006 年 3 月に紹介。

板橋区立郷土資料館特別展江戸の砲術、砲術書から見たその歴史に絵図資料貸出し、講演、同館には砲術絵図等たびたび提供している。同館図録多数に掲載されている。

しらはく双書 16 『三春古城絵図・三春県絵図方測量絵図』や日本古地図学会掲載明治 4 年三春県絵図方測量記録 120 町村 600 余の野帳・絵図を見て、**三春歴史資料館**が来られ、**三春城郭図、三春町絵図、村絵図**等を提供している。

陸軍省城絵図では関西城郭研究会機関紙、城 198 号、『正保城絵図を超える規模で実施された日本最大の幻の城郭調査・明治 5 年城郭存廃調査の記録絵図』掲載の高槻城をご覧になり、**高槻市教育委員会**が**陸軍省築造局高槻城存廃絵図**の調査に来訪された。

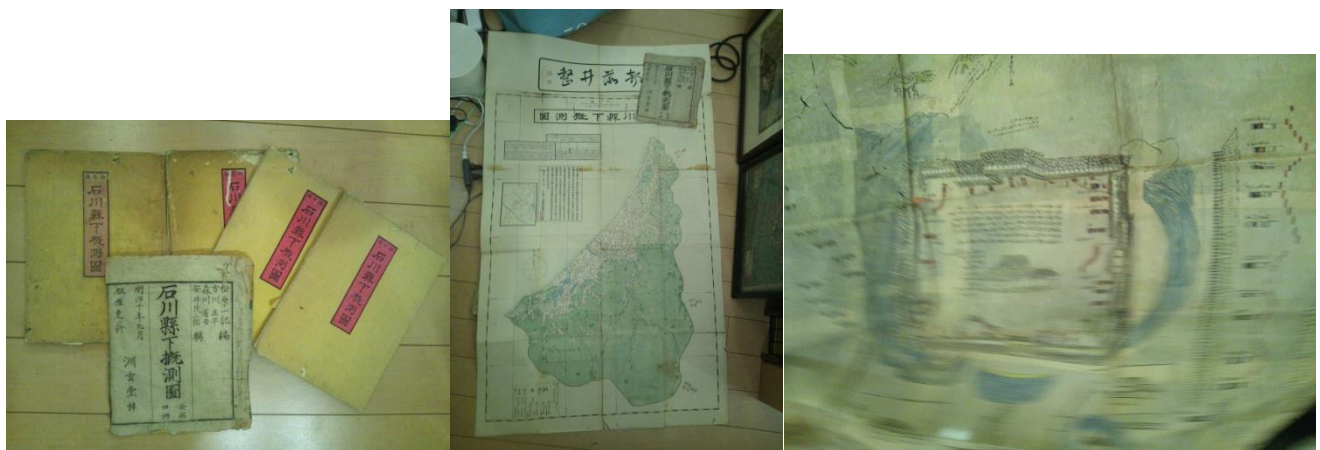
長野県城絵図展では会場で**伊那市、飯田市等地元文化財関係者の出展資料の撮影**に応じている。

安中市教育委員会会津若松城下絵図屏風展では、八重の桜関連資料等展示資料すべて貸し出し。

今後も整備をされている城跡等急がれる場合は、資料を開示します。条件は資料掲載時に所蔵所を明示すること、掲載図書と出版されている城郭報告書の提供、撮影データの提供、来訪による調査対応のみです。展示会出展以外の貸し出しは行いません。開示するのは古絵図、古地図、絵葉書、錦絵、版画等整理完了資料です。又、博物館相当施設で防犯完備な場合のみ、全国の城郭資料展示会の開催に協力させていただきます。

3・古典籍大バトル入札会に参加 2点落札

石川県下概測図 明治 11 年 能登、加賀以外に石川県に所属した越中、越前を含む木版絵図 4 舗
信州川中島甲越合戦陣取絵図(仮題) 240x310cm の大型絵図



明治東京全図明治 9 年市原正秀 195 x 146 cm、飯田城本丸絵図寛政 7 年御下屋敷御絵図弘化 4 年御本丸御座敷之図 3 舗の 2 点は数千円の僅差で落札できず、何れも貴重な資料で返す返すも残念です。平山郁夫草稿 960 枚ペン書きも惜しかったです。

中島流砲術書 1 箱秘伝書砲術書、篠山藩小川家中島流砲術伝書一括、小嶋流砲術巻 8 巻寛文 6 年、西洋神器図ピストル等絵図巻、天工開物明和 8 年崇高堂版、陸奥国盛岡藩米内家文書 1 箱花巻城絵図等 50 点、銅版画コレクション松田緑山岡田春燈斎 49 枚嘉永 6 年頃各地名所絵図、国際観

光都鎌倉市観光鳥瞰図中村慈郎原画絹本34 x 150 cm以上は価格が離れていたか、親引きでした。最近初三郎系の原画はよく出ますが、高くても買えません。だいたい、50-100万円です。こちらには小さいですが大阪府初三郎鳥瞰図原画があります。

落札した石川県下概測図は明治10年9月版權所有、11年3月刊、全4冊、大型の木版色刷詳細絵図です。**海岸線は伊能図を用い、内部を新たに測量**したようです。編纂は松原一記、吉川庄平、森川省吾、安井繁三郎の4名。**信州川中島甲越合戦陣取絵図は256x240cmの巨大絵図**で新発見です。永禄4年の合戦が周辺山岳の陣取、街道の陣取、海津城の布陣が細密に描かれています。いずれ、詳細な調査報告をさせていただきます。次回**入札希望者は連絡ください。1人では買い切れませんので、必要な方は代行します。**

4・しろはく古地図と城の博物館富原文庫既刊出版目録(絶版品切です)

- しろはく双書1 **地図一覧図** 地図図式編年目録 150種 400図別冊見本60枚 2002年
2 幕府鉄砲方与力井上貫流武州西台徳丸が原文文化9年砲術記録 2002年
3 宝永9年1707城郭用語図解 加賀藩有沢武貞図解軍詞之巻 2002年
4 甲州流古城秘伝書古城絵図と築城縄張図の伝来・13城絵図 2002年
5 和歌山市街図と**和歌山城跡**の変遷 2002年
6 **甲府城**資料、絵図・実測図・市街図・版画・鳥瞰図・古写真 2002年
7 甲州流縄張古城絵図集・11城絵図 2002年
8 **城塞釈史1最大規模の城図集**・92城絵図 2002年
9 **釜山・倭城と町並**・古地図に見る景観 32地図 30枚古写真 2003年
10 古城図・発見古城版主図合結記畿内から奥州 36城絵図 2003年
11 **大日本築城史稿本築城に関する実験付図** 69版 89図上巻 50図 2003年
12 大日本築城史稿本築城に関する実験付図 69版 89図下巻 39図 2003年
13 **小菅御殿絵図**・文化12年1815年夏・今小菅監獄 2003年
14 築城約説・築城約説図慶応3年夏 2003年
15 **要塞砲兵砲台勤務**・未刊本草稿初公開 2003年
16 **三春古城絵図三春県絵図方測量村絵図** 120町村 600野帳絵図 2004年
17 川越藩城制絵図・松平大和守家築城絵図 345城目録 2004年
18 **多賀城**資料・瓦版6枚・鳥瞰図・古写真 30枚 2004年
19 **幕末築城道具図鑑**・原題『軍器集』嘉永7年28絵図 2004年
20 **仙台城跡図集**第一分冊明治大正地図に見る城跡の変遷 41図 2004年
21 仙台城跡図集第二分冊昭和地図に見る城跡の変遷 42図 2004年
22 **若林古城跡**に迫る・城跡地図等 58図宮城刑務所 2004年
23 都市地図絵葉書厳選原寸 80葉 2004年
24 城郭鳥瞰図絵葉書・都市鳥瞰図絵葉書厳選原寸 112葉 2004年

『真田戦史古城絵図』躑躅が崎築城から大坂の陣迄、**上田市戦国の城と合戦絵図**展出品全目録

初公開全カラー140絵図 2001年5月1日

『戦前絵葉書に見る中世城郭織豊城郭の景観 付朝鮮の倭城、城跡』古絵葉書130選

2000年11月30日

『富原文庫本安土古城図』滋賀県文化財と同等の細密安土城絵図複製、絵図27図、実測図11図

写真142枚等収録、2002年8月1日

なお、富原文庫発刊物以外に、関西城郭研究会から『**国難の時代 幕末 軍事史から見た砲術と城郭**
附・明治以降陸軍城郭研究編年史』明治5年陸軍省城絵図の発見と検証―陸軍省築造局遺各存廃

調査絵図『正保城絵図を超える規模で実施された日本最大の幻の城郭調査—明治5年城郭存廃調査の記録絵図』を刊行している。

新収集情報報告

1・回顧写真大観に**松嶺城大手門、松嶺高校使用時の写真**掲載。昭和27年。

「歴史の中で勉学、**古城をそのままに高校の校舎**」という題で、山形県立松嶺高校が紹介されている。2階が裁縫室で急な階段を女子高生が昇降する写真、1階は事務室でガラス障子を巡らし、城門の風情は見えない。松嶺城は御承知の通り、出羽国松山城で、明治以降、松嶺城とも言われた。寛永4年の再建で、山形県唯一の現存城郭建築の昭和27年の姿である。城郭絵はがきや古写真だけでなく、写真帳といわれる中に、貴重な資料が眠る一例か。昭和も古写真？、関連目的で日本史蹟体系、画報近世三百年史、国際文化画報、日本史跡写真帳等購入。



2・11月**金鯢コレクションに陶器製金鯢一対追加**

金鯢のコレクションは名古屋城のショップで多く売られているが、戦前にも木彫、金物、版画、絵葉書等素晴らしいものがあり、富原文庫でもあらゆるものを収蔵しているが、陶器の金鯢一対を加えることが出来た。金鯢は1992年5月東京のINAXギャラリーで展示会が開催され、見学した記憶がある。図録も出ていて、全国の城の鯢写真、ルーツ、伝説、多くの鯢グッズが紹介されている。バッチ、酒ラベル、包装紙、ポスター、入場券、置物、版画、絵葉書、名所絵図、置物、最後の町に住む鯢マンホールのはたはコレクションできないが、大半は収蔵している。錦絵や名所図のほとんどの金鯢やエンボス絵葉書の金鯢は100枚以上で変化があり、実に楽しい。

『名古屋城と金鯢』や2005年の名古屋城博では『よみがえる金鯢伝説』という冊子まで作成されている。金鯢は城グッズコレクター垂涎の的といえる。

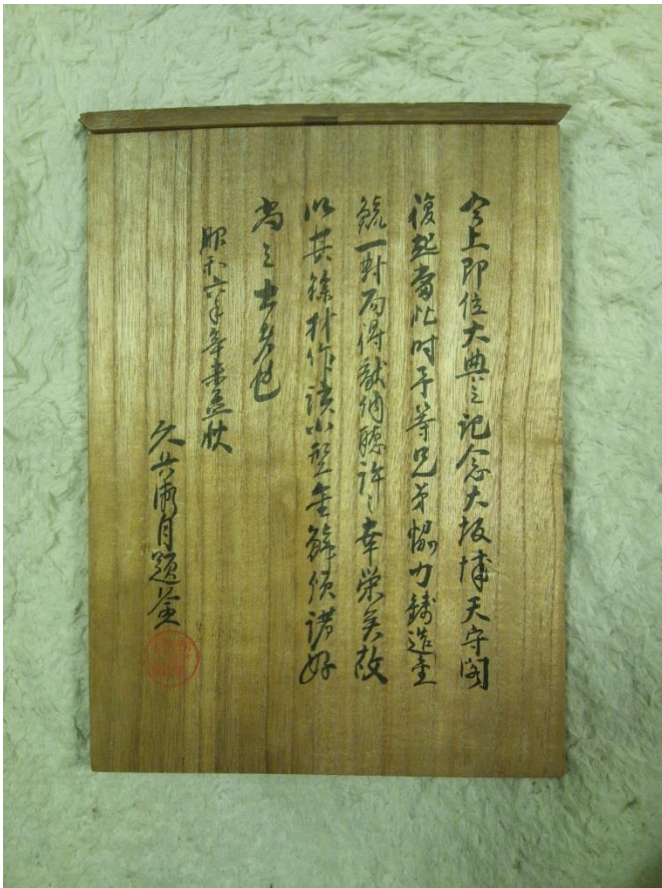
名古屋城・金鯢錦絵所蔵一覧

- 1 尾張国名古屋城天守之金鯢 明治7年4月松本博覧会社印 1枚
- 2 尾張国名古屋城天守之金鯢 明治7年4月松本博覧会社印 1枚
- 3 尾張国名古屋城天守之金鯢 不明 1枚
- 4 尾張国名古屋城天守之金鯢 不明 1枚
- 5 尾張国名古屋城天守之金鯢 不明 1枚
- 6 諸国名所百景尾州名古屋真景 1枚
- 7 なごや鯢三題乃内桜の八事山を望む 英鳳 1枚
- 8 名古屋八景其一 林之助 1枚
- 9 東京名所三十六越撰元昌平坂博覧会 金鯢 一景 1枚
- 10 古今珍物集覧元昌平坂聖堂二於て 金鯢 国輝 3枚続き
- 11 名古屋鎮台行軍出營之図 堯春 明治20年2枚続き

- 1 2 名古屋鎮台分列式之図 浅井末吉 明治20年2枚続き
- 1 3 名古屋鎮台兵行軍之図 不明 明治20年1枚
- 1 4 名古屋鎮台觀兵式之図 芳景 1枚



- 1 5 名古屋独案内 錢屋所次右衛門 1枚



金鯰コレクション下段ブリキ、木彫、銅製、上段銅製金鯰来歴、瓦製金鯰、写真掲載以外に100枚近いエンボス金鯰絵葉書、数十枚の石版名古屋名所掲載金鯰図がある。

3・11月銃砲コレクション

1886年ウインチェスター復刻銃(銃刀法対象外)

口径44装弾数10発レバーアクションライフルの複製。全長98cm。

アームストロング砲雛形全長31cm、

大砲砲弾、突弾高さ34cm直径10cm

火縄銃は馬上筒、城筒等、雷管銃改造筒、指火銃、井上貫流鑄造火矢筒、抱えの大筒、毛利藩大筒複製、村田銃銃身、火縄銃銃身改造自在鍵、多くの大砲雛形約20台、玉型、玉鍋、火薬入れ、鉛弾等各種銃砲小道具多数、幕府鉄砲方与力井上貫流等銃砲関連古文書、古典籍所蔵。探究銃はスペンサー銃、スナイドル銃等後装填ライフル銃。アームストロング砲雛形は同一のもの4基となり、博物館2階1間の階段上部から玄関を俯瞰している。大砲の砲弾は大小多数収蔵。

4・11月若松城本丸現状図 昭和24年7月現在 青焼 62x64cm

若松旧城郭之図 千分一 青焼 67x97cm

若松旧城郭之図 千分一 青焼反転図 67x97cm

会津若松市が戦後整備に作成したと思われる基本城郭図文部省指定史跡若松城趾三枚とある。

5・11月城絵入のぼり旗47x300cm 型染めで武将と天守、金鯱

39x220cm 型染めで武将と天守、金鯱

色鮮やかな祭り用のぼり旗 未使用 文庫には城郭が描かれた大型ののぼり旗数本もある。

6・太平記 1・15・24・27・39端本であるが大型の絵入本 1の巻頭全39巻総目録。

太平記 序・1-14・17-18・21-28・35-36巻 序に巻初と総目録有

佐々木軍記 巻1・2上下・4下・5・6巻6冊 箕作城合戦等

江源武鑑 巻1・2・6・10・13巻5冊 1巻に江陽屋形次第・江陽之日記家々書伝・佐々木1家流々名字之分系・江陽御代々制法条々・江陽代々御出軍制法条々・屋形代々御陣小屋取図等記入 2巻以降は天文6年からの編年史

平家物語 巻6 絵入本

写本 関ヶ原備考前編12冊後編29冊 東西太平論9冊 義公黄門仁徳録16冊

7・11月**浮世絵下絵** 年方 雛祭紫宸殿舞楽ノ図 明治13年 3枚続き

年方 武者絵 1枚物 荒木摂津守村重 1枚物 作者未記入

8・11月明治コロタイプ印刷 熊本城(城名記入なし) 48x61cm 非売品朱印

明治25年石版印刷・色カップ刷 日本3名城熊本之厳城 36x47cm 美術着色会社製造 画作勝山繁太郎

9・11月中国地形図 熱河省赤峯懸 間場 10万分I 中行北42列 中華民國21年 参謀本部 陸地測量総局 39x54cm いわゆる外邦図

朝鮮地図 咸鏡北道 大正7年 臨時土地調査局編纂 大正9年 朝鮮総督府 小林又七 50万分I

新京・奉天・旅順・開原・鉄嶺等中国満州軍事地図50枚

10・11月『田中啓爾文庫目録第3巻地図の部』立正大学寄贈

城郭絵図等江戸期のものは少ないが、富原文庫で誇る全国都市市街地図が充実し、こちらでは全く未整理の海外都市図が充実している。編集には東京古地図倶楽部の清水、鈴木両先生が携わっておられた。こちらではこのように一度に所蔵一覧を作成することは困難であるが、地域別には公開していきたい。おそらく、国内市街地図、道中図とも倍以上の収蔵量と思われる。全国の城郭絵図を所蔵している機関や古地図所蔵機関の目録は城郭絵図の残存状況を知るために、50

年来収蔵している。当初は城郭別絵図、資料の所蔵所一覧、いつか、岩波の国書総目録の城資料版を夢見ていたが、個人では不可能と気づいた。若いころ日本城郭近畿学生研究会で日本城郭文献総目録にチャレンジしたことがある。当時、鳥羽正雄先生にも期待していただいたが、お答えできなかった。城郭絵図所蔵機関蔵書目録はいずれ一覧表にしたい。

11・11月錦絵

楠千剣破箆城之図 国政 明治13年 3枚続き

軍人道具盡 綱島版 明治29年 大版1枚

瓢軍談五十四場 表紙 24赤松水攻防戦難儀 2枚大判 歌川芳艶

富原文庫はほとんどの城郭錦絵をそろえるが、秀吉伝記である瓢軍談五十四場も五十五枚全枚数所蔵している。

12・11月地図グッズ

小学児童地理遊び 東京尚友堂 大正十年

今の**ジグソーパズルの原型で日本地図**（54 x 75 cm）に板紙を貼り付け、各県に7mmの穴を開け、嵌め込み用に50パーツの県型板紙の裏に7mm円形突起をつけ嵌め込むめずらしいもの。登録実用新案とされている。初版は大正8年。この種の地理パズルは全世界で出ており、地図グッズコレクションとして所蔵している。

地形立体地図パズル（仮称）13 x 18 x 3 cm木箱入り、上面ガラスで中に15ピースの立体地形、家屋等嵌め込みができる。各ピース緻密詳細な模型となり、組み合わせて村をつくること出来る。同じパーツが2個あり、完成せず完品といえるか疑問がある。

堆積地形模型 広島三角州・富山扇状地 5万分1 44 x 66 x 7 cm 京都科学標本（株）

地質説明模型 （株）内田洋行科学器部 昭和38年頃 直径36 cm高さ15 cm 上部に山岳の立体模型、土台以外が回転し、側面に地下構造が描かれる。

この他、世界地図（巾1, 5mぐらい）の各地に点滅が付くものも紹介されたが、さすがに辞退した。こういったものの売り先はこちらと決められているようです。



13・11月**東京都1万分1白図** 47図 復興土地住宅協会編輯 23区全域 内山地図株式会社 全46図に索引があるが、惜しむらく、3図欠、索引図2枚。刊行年未記入、震災後すぐの実用地図と思われる。本郷に等高線入り、田端に記入済みがあり各2枚、地区によって等高線入りの図とない図があるため、全容は不明確である。各図42 x 64 cm、一覧図38 x 51 cm。

14・11月大型地籍図

下総国鹿島郡村絵図 156 x 252 cm 明治10年頃

秋田県第十五大区中第五小区平鹿郡木下村略絵図 現横手市、旧植田村、十文字村 156 x 188 cm 明治10年頃

金沢村地引絵図四枚之内第一号 160 x 212 cm

村絵図240 x 254 cm

村絵図368 x 400 cm 以上三点は未検証

地籍図は明治10年—11年全国で作成され、残存しているが多くは分散している。



15・11月城郭プラモデル

信州上田城東虎口櫓門 200分1 諏訪のピーエムオフィスエーの企画制作販売。上越自動車道小諸と上田の間のパーキングで購入。基本、プラモは買いませんがプレゼントされるため、組み立てずに保管している。このように天守以外の櫓は珍しい。なお、骨董市で巨大な熊本城プラモデルにでくわした。25000円と高額なため、遠慮したが、はて。

16・11月名所図絵

伊勢参宮名所図絵 全5冊附録3冊 寛政9年 京から伊勢への道中記 **膳所城**等が描かれる。
住吉名勝図絵 全5冊 寛政6年 浪花玉山画名所図多数

17・11月歩兵第6連隊旧蔵満州軍用地図93枚

18・**長尾謙信軍配扇**複製 能州七尾城攻めの際、上越市愛宕神社に奉納したもの 黒漆に金の丸 52 x 20 cm、房40 cm 黒地に金の丸は関東管領の旗印

19・酒田大震写真図 明治28年 石版6枚、袋付23 x 32 cm 阿部喜平治

20・東海道五十三次 **関野準一郎** 限定三百部 昭和49年 墨書き署名朱印入り、筆者手彫手摺による**京都高瀬川木版1枚鉛筆サイン朱印入**(21 x 27 cm) 近代版画は橋本興家の城郭版画や川瀬巴水の風景画等を対象にしている。

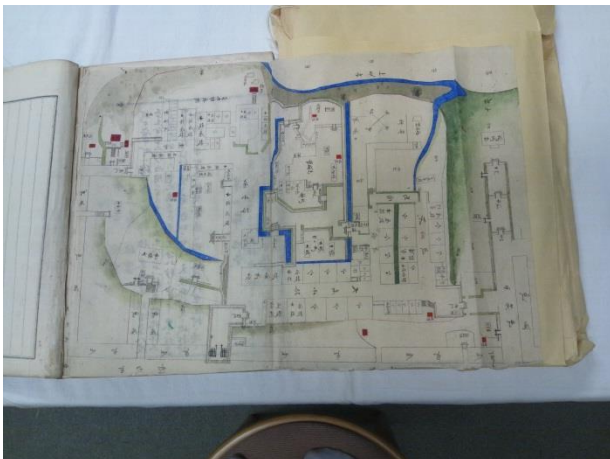
手摺木版画北斎富岳三十六景 22 x 36 cm 全46枚揃桐箱入 定価298800円

21・主要な文献 日目の城郭報告書、絵葉書は膨大なため省略します。

長野県史蹟名勝天然記念物調査報告復刻本全7冊 大正12年から昭和26年まで、28冊刊行された長野県の最初期の城郭等調査報告書

明治初期長野県町村絵地図大鑑 明治初期長野県町村字地名大鑑 明治7年から10年かけて明治政府が提出させた地誌の附図を始めて刊行したもの。原本は関東大震災で焼失したが長野県に副本が所蔵され昭和60年に刊行。ほとんど村絵図であるが、城郭図も収録されている。

安中誌 藤巻柳三郎 昭和32年 大安中町合併記念 736頁 昭和39年の安中市誌1008頁より先行するが、あまり知られていない。なお、安中には刊行されていないが、教育委員会所蔵で明治43年3月編纂による墨書きの安中町郷土誌があり、第2節古蹟古史古文書調査に安中城跡の概略歴史がわずか2頁であるが、記載され、城絵図の写しがある。



安中市教育委員会所蔵安中町郷土誌所載安中城絵図

22・風俗画京熱田道中絵図 京都二条城・近江膳所城・桑名城・岡崎城？が描かれる。極彩色額装仕立て絵図。京から島原、大津、石山、膳所、瀬田、桑名、熱田、二宮、岡崎を描く。図柄56 x 136 cm 額67 x 158 cm 同様風俗図の黒尽くしの江戸城天守を描く道中図もあり、東海道の両端が揃うことに成る。ただし、江戸城の方は半屏風の一面か。



二条城

膳所城

桑名城

23・豊前小倉藩小笠原忠総公御判物

明和3年1766年から幕末に至る動乱期の小倉城主から家臣遠山久慶への知行書6通、信州伊奈郡遠山郷を出自とする遠山氏の記録。『遠山氏略系稿』『家系』『勤年数書』『遠山氏系』『由緒書』等。遠山氏は武田氏に仕え山県昌景支配から、没後、松本の小笠原貞慶に奉仕、小笠原氏に従い、下総栗橋、古河、信州飯田、松本、播州明石、寛永9年豊前小倉に移住。

あとがき

起業によって、さらに多くの友人を得て、新世界の魅力に浸り切っている日々です。東日本の骨董古書業界の古地図、城郭関連の資料発見情報はほとんどいただけるようです。ただ、井の中の蛙、大海に飛び出すのとえで、範囲が広がるほどライバルが増えるわけで、買えない場合も増加してきました。元より、市場にあるすべてを入手することは経済的に不可能です。身の丈にあった範囲で勝負するしかありませんが、そこにあることを発見できる場にいることはすべての前提です。こちらの不見識で猫に小判、有用な資料を多く見逃していることと思います。生涯学習という意味をかみしめ、反省の日々です。今月で66歳、乾いた砂が水を吸うように吸収しています。限りなき挑戦は生涯テーマです。

発行所

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

379-0109

群馬県安中市秋間みのりが丘5-73

090-2722-4689 (しろはく)

FAX 027-315-4689 (しろはく)

shirohaku@kym.biglobe.ne.jp

お願い 本活動記録は自由に転送してください。こちらからの直接の配信を希望される方は、メールリストに登録しますので、返信をいただければと考えて居ます。都合でメールを受信できない方への配信は出来ませんので、その場合は代わりに受信できるご家族の方等のアドレスをご連絡ください。